

# 令和6年度 第2回 徳島県GIGAスクール構想推進本部会議

## ■ 推進目標

「教育DXによる学び・指導の充実と深化」

・「徳島ICT活用モデル」のA段階以上の実施率100%

徳島県GIGAスクール構想推進本部事務局



# 次 第

---

日時 令和6年11月15日（金） 午後1時30分から午後2時45分まで

## 1 開 会

## 2 本部長挨拶

## 3 協 議

(1) 徳島県学校教育情報化推進計画について

(2) 推進チームの取組について

(3) 各部会の取組について

(4) その他

## 4 閉 会

# 出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育長	中川 斉史	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	
徳島県教育委員会 副教育長	松本 光裕	
徳島県小学校長会 会長	井上 圭三	
徳島県中学校長会 会長 徳島県中学校長会 事務局長	松尾 真千子 笠谷 祐史	欠席 代理出席
徳島県高等学校長協会 会長	宮本 淳	
徳島県特別支援学校長会 会長	名山 泰子	
徳島県教育委員会 教育次長 (幼・小・中学校担当)	海老名 正規	欠席
徳島県教育委員会 教育次長 (高・特別支援学校担当)	真相 秀也	

# 出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	内海 はやと	
徳島県教育委員会 教育DX推進課 課長	戎 弘人	教育DXタスクフォースリーダー 共同調達検討部会長
徳島県教育委員会 教育DX推進課 主幹	黒田 收	推進チームリーダー 情報モラル・情報セキュリティ 対策部会長
徳島県教育委員会 義務教育課 課長	長谷 彰彦	
徳島県教育委員会 義務教育課 主幹	村岡 文英	中学校部会長
徳島県教育委員会 高校教育課 課長	酒井 吉彦	
徳島県教育委員会 高校教育課 主幹	藤本 智美	高等学校部会長
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	中山 登	特別支援学校部会長
徳島県教育委員会 いじめ・不登校対策課 主幹	阿部 憲市	学びの保障部会長
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	牧野 浩章	データ活用研究部会長
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	宮城 佳恵	小学校部会長

**【事務局】徳島県教育委員会 教育DX推進課 GIGA・学び創造担当**

富永 憲志(主)、山下 芳紀(副)、楠 俊弘、大西 芳正、藤倉 新、播磨 敬二

# (1) 徳島県学校教育情報化推進計画の進捗状況について

---

## 1 計画の位置づけ

令和5年3月に策定した本計画は、本県の学校教育の情報化の推進に関して、今後の施策の方向性を示すものである。また、**徳島県教育振興計画（第4期）の下位計画**として、**学校教育の情報化の推進に係る具体的施策**を示している。成果指標については、策定時に努力目標として高い数値を設定している。

## 2 進捗状況の管理

徳島県及び市町村が連携した「徳島県GIGAスクール構想推進本部」（以下、「推進本部」という。）を中心に、各施策の展開に際し機動的に情報を共有することにより、本計画に基づく施策の進捗管理を行う。

取組状況については、毎年度、推進本部の**教育DXタスクフォース部会**で、成果指標を点検・評価し、計画に基づく施策の進捗管理を行い、次年度の施策や予算等へ反映できるよう公表を行う。

# 成果指標(1) ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

項番	指標	対象	R4実績	R5				R6目標	R7目標
				実績	対前年度	目標	評価		
1	授業で、ほぼ毎日端末を活用している児童生徒の割合	小学校 6年生	20.9%	19.2%	1.7% ↓	50%	△	80%	100%
		中学校 3年生	10.3%	11.7%	1.4% ↑	50%	△	80%	100%
		高校 1年生	—	8.3%	—	50%	△	80%	100%
2	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う児童生徒の割合	小学校 6年生	93.4%	94.2%	0.8% ↑	95%	○	100%	100%
		中学校 3年生	89.9%	89.2%	0.7% ↓	95%	△	100%	100%
		高校 1年生	—	68.0%	—	95%	△	100%	100%
3	小中学校のCBTシステム利用学校数	小学校 中学校	4	51	47 ↑	50	◎	100	全校
4	情報I（代替科目を除く）において、プログラミング実習・データの活用実習を実施している学校の割合	高校	52.1%	87.5%	35.4% ↑	100%	○	100%	100%
5	特別支援学校におけるオンラインを活用した「スポーツ交流大会」等の開催回数	特別支援学校	3	3	—	3	◎	3	3
6	情報モラル教育に関する年間指導計画を作成している学校の割合	全学校	100%	100%	—	100%	◎	100%	100%

## 成果指標(2)教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保

項番	指標	対象	R4実績	R5				R6目標	R7目標
				実績	対前年度	目標	評価		
1	授業にICTを活用して指導することができる教員の割合	全学校	90.4%	91.4%	1.0%↑	95%	○	100%	100%
2	児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合	全学校	90.7%	91.7%	1.0%↑	95%	○	100%	100%
3	ICT活用指導力向上に関する研修を受講した教員の割合	全学校	89.6%	86.4%	3.2%↓	95%	△	100%	100%
4	教職員が情報セキュリティに関する研修を受講した割合	小学校	55.8%	98.1%	42.3%↑	100%	○	100%	100%
		中学校	53.7%	98.7%	45.0%↑	100%	○	100%	100%
		高校	100%	100%	－	100%	◎	100%	100%
		特別支援学校	100%	100%	－	100%	◎	100%	100%
5	遠隔教育を実施した学校の割合	全学校	82.7%	92.1%	9.4%↑	95%	○	100%	100%
6	GIGAスクールに関する指導・実践事例数	全学校	200	475	275↑	300	◎	400	500

## 成果指標(3) I C Tを活用するための環境の整備

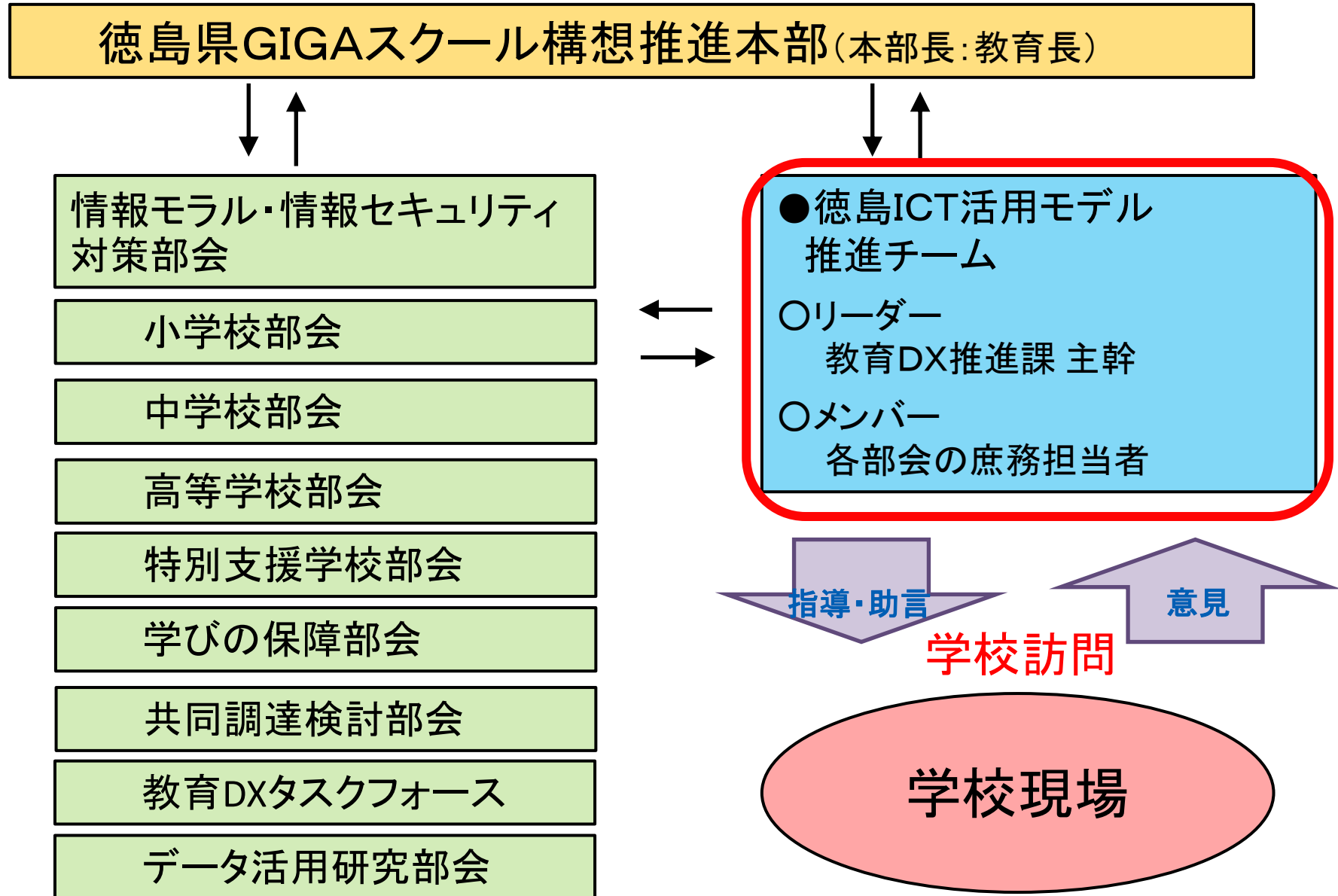
項番	指標	対象	R4実績	R5				R6目標	R7目標
				実績	対前年度	目標	評価		
1	学校へのインターネット回線 (1 G b p s 以上) 環境の整備率	全学校	66.0%	71.1%	5.1% ↑	80%	○	90%	100%
2	普通教室の無線 L A N 整備率	全学校	99.9%	99.9%	—	100%	○	100%	100%
3	普通教室の大型提示装置整備率	全学校	91.8%	92.0%	0.2% ↑	95%	○	100%	100%
4	指導者用デジタル教科書の整備率	全学校	96.9%	97.3%	0.4% ↑	100%	○	100%	100%
5	学習者用デジタル教科書の整備率	全学校	44.9%	85.2%	40.3% ↑	50%	◎	60%	70%
6	I C T 支援人材を配置している 自治体の割合	県・ 市町村	72.0%	80.0%	8.0% ↑	80%	◎	90%	100%

## 成果指標(4) I C T 推進体制の整備と校務の改善

項番	指標	対象	R4実績	R5				R6目標	R7目標
				実績	対前年度	目標	評価		
1	I C T を活用した校務の効率化に 取り組んでいる学校の割合	小学校	96.9%	99.4%	2.5% ↑	100%	○	100%	100%
		中学校	91.2%	98.8%	7.6% ↑	100%	○	100%	100%
		高校	—	94.2%	—	100%	○	100%	100%
		特別支 援学校	—	100%	—	100%	◎	100%	100%
2	市町村の学校教育情報化 推進計画策定率	市町村	—	0%	—	100%	△	100%	100%



# 令和6年度の徳島県GIGAスクール構想推進体制



# 徳島県 ICT 活用モデル推進チーム

## 本年度の目標

A段階以上の実施率が、全校100%を目指す。

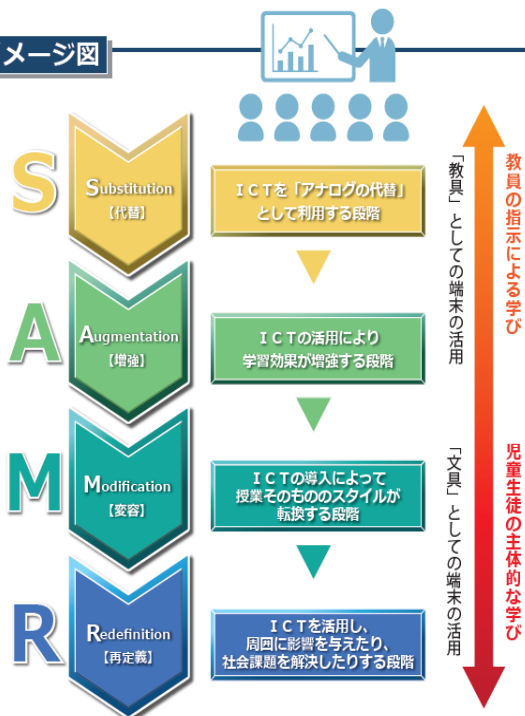
### A段階以上(5月)

小	59.8%
中	48.8%
高	34.2%
特	54.6%

### <活動内容>

- 本部会や各部会での決定事項などを各校に周知し、学校現場における1人1台端末を活用した効果的な指導や家庭学習の一層の充実を図る
- 学校現場からの意見等を本部会や各部会に周知する
- 学校訪問等での指導・助言や好事例の収集
- 「徳島ICT活用モデル」に係る調査及び支援

### イメージ図



### 前期学校訪問(5月～7月)

- ◎ 小学校 20校・中学校 5校・高等学校 2校・特別支援学校 3校に訪問
  - ◎ 公開授業・研究授業の参観
  - ◎ 授業研究会での指導・助言
  - ◎ 全体会での施策の説明・質問への回答
  - ◎ 管理職との協議
  - ◎ 学校からの意見・好事例等の収集
- など



## 今年度、学校訪問 非対象校へのヒアリング（7月～8月）

- ◎ 小学校 113校・中学校 58校・高等学校 7校・特別支援学校 1校の合計179校にFormsで聞き取り
- ◎ 校種別・SAMRの段階別（S段階の学校/A段階以上の学校）に分類

『S段階』の学校における課題

【小学校】	%
①活用推進	39.0%
②効果的活用	14.3%
③データ利活用	1.3%
④情報活用能力	1.3%
⑤個別最適な学び	6.5%
⑥デジタル人材育成	11.7%
⑦機器・ネット環境等	20.8%
⑧ICT支援員との連携	1.3%
⑨その他	3.9%

『A段階以上』の学校における課題

【小学校】	%
①活用推進	26.8%
②効果的活用	16.5%
③データ利活用	2.1%
④情報活用能力	6.2%
⑤個別最適な学び	5.2%
⑥デジタル人材育成	12.4%
⑦機器・ネット環境等	28.9%
⑧ICT支援員との連携	1.0%
⑨その他	1.0%

【中学校】	%
①活用推進	24.3%
②効果的活用	2.7%
③データ利活用	0.0%
④情報活用能力	2.7%
⑤個別最適な学び	2.7%
⑥デジタル人材育成	24.3%
⑦機器・ネット環境等	37.8%
⑧ICT支援員との連携	0.0%
⑨その他	5.4%

【中学校】	%
①活用推進	28.6%
②効果的活用	5.7%
③データ利活用	0.0%
④情報活用能力	5.7%
⑤個別最適な学び	5.7%
⑥デジタル人材育成	14.3%
⑦機器・ネット環境等	37.1%
⑧ICT支援員との連携	2.9%
⑨その他	0.0%

小・中学校共に、「活用推進」と「機器・ネットワーク環境等」が課題となっている学校が多い。

※ 前期学校訪問での聞き取り内容も含む

※ 高等学校と特別支援学校は後期学校訪問終了後に算出する





## 「教育DX推進に係るFAQ」及び「各校の方策・取組例」を作成

◎ FAQは、実際にいただいた意見に対する回答

◎ FAQは、推進チームで作成した「暫定版」として発行

※11月のGIGA推進月間、12月のSAMR再セルフチェックに向けて

◎ 今後、後期学校訪問での意見等も加えたFAQを作成し、**推進本部及び各部会でも検討いただき、「令和6年度版」として年度末に発行予定**

### 教育DX推進に係るFAQ[暫定版] (前期学校訪問・学校訪問未実施校へのヒアリングより)

#### ① ICTの活用推進

1	Q:「徳島 ICT 活用モデル」の S 段階から A 段階へのステップアップのポイントは? A:「管理職のリーダーシップ」「できることから どんどん進める」「みんなで取り組む (校内研修・ミニ研修・普段の会話 等で横展開)」がポイントです。教師、児童生徒が積極的に利用することで、「デジタルならではの効果的な使い方」のイメージが膨らむことが期待できます。
2	Q:タブレットは活用しているが、発表 (伝える) だけで終わってしまい、友達の見解と比較したり考えを深めたりすることが少ない。 A:クラウドを活用すると、口頭での発表時間を短縮したり、発表と同時に児童生徒の見解や考えを可視化・共有したりすることが可能です。そうして捻出した時間で、比較・分類・整理する活動を中心に授業を展開したり、児童生徒同士が質問し合い、協議する活動を行ったりしている例もあります。
3	Q:研究授業や公開授業などで M 段階の授業を参観した経験が少なく、児童生徒主体の活動をイメージしづらい。 A:「StuDX Style (文科省)」や「徳島 ICT 活用モデル」、「すだちくん 1 分 StuDX」には、児童生徒主体の活動をイメージできるコンテンツや事例が掲載されています。参考にしてください。
4	Q:各学年・各学級によって、ICT の活用等に差異がある。 A:各小学校で毎年度策定している「情報活用能力年間指導計画」を、必要に応じて随時、実態に即した内容へ改訂をお願いします。なお、本県では「ICT スキル習得体系表」で、小学校 (低・中・高) から高等学校まで目指す姿を段階的に示しているのを参考にしてください。また、①-1 に示したポイントも参考にしてください。
5	Q:教育 DX 推進に対する教員の意識の差があり、ICT の活用が進んでいない。 A:①-1 のポイントで具体的な取組を進めるとともに、「令和の日本型学校教育の構築」や「Society5.0 時代にふさわしい学校の実現」のためには、DX による授業改善や校務の効率化が必要であることと、全校種の学習指導要領で「情報活用能力」が学習の基盤として育むべき資質・能力と位置付けられていることの共通理解をお願いします。
6	Q:校務支援システムは活用しているが、それ以外の校務での ICT 活用ができていない。 A:先生方自身が ICT の利便性を感じる事が重要です。校務の効率化の好事例としては、家庭等への連絡やお便り等のデジタル化・クラウド化、ICT を活用した出欠連絡、アンケート・集計作業等のデジタル化、生成 AI を活用した文書の草稿作成・画像の生成などが、よく紹介されています。
7	Q:生成 AI の活用ができていない。 A:まずは、先生方の校務にて活用してみたいかがてはいかがでしょうか。教材作成や自分が作成した文書のチェック、アンケート結果の分析などを試してみてください。(今年度の徳島県 GIGA スクール構想推進本部 小・中・高の部会通信も参考にしてください。)

後期学校訪問  
(9月～12月)

小学校 26校  
中学校 13校  
高等学校 33校  
特別支援学校 7校

実施中

# 令和6年度GIGAスクール構想推進本部【情報モラル・情報セキュリティ対策】部会

## 令和6年度重点目標

自他の権利を尊重し、デジタル技術を適切に扱う責任の自覚を高める

### 課題

- ・情報化の進展に即した情報モラル・情報セキュリティ教育の推進（児童生徒・教職員・保護者等）
- ・先端技術の教育実践への適正な利活用とルールの更新

### 方策

- ・情報モラル・情報セキュリティ関係の情報収集・発信
- ・「生成AI」等の利活用に関する事例収集・研究と「FAQ」の更新
- ・各校種部会と連携して具体的な内容を協議・検討

### 取組の進捗状況

1. 情報モラル教材の作成：一般社団法人LINEみらい財団 他と提携し、徳島県版活用型情報モラル教材「GIGAワークブックとくしま」を作成・公開。
2. リーフレット配布による周知・啓発：リーフレットを義務教育及び県立学校の保護者に配布。
3. 教職員研修の実施：情報モラル教育の推進役を担う教員対象に、効果的な指導方法等について研修会を実施。
4. 情報セキュリティ対策：データ利活用について点検し、より適切にクラウドを活用するために、関連様式を改正。



1. 情報モラル教材「GIGAワークブックとくしま」



2. リーフレット配布

## 令和6年度重点目標

主体的なICT活用による学びの深化 ～児童が自立的に学びを進める学習をめざして～

情報を正しく安全に利用できる能力の育成

### 対応状況

- ・ 徳島ICT活用モデルや生成AIの校務での活用についての好事例を部会通信で発信
- ・ 主体的・協働的な学びにふさわしい授業動画「1分間Studx」を紹介
- ・ 情報活用能力の育成に向け、タイピングアプリ「らっこたん」の導入
- ・ 情報モラルについて、「GIGAワークブックとくしま」の普及・推進



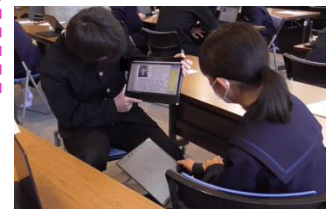
### 学校における教育DXを推進する好事例

- ・ 朝の学習や隙間時間を活用し、児童のタイピングスキルを向上を目指してタイピング練習を実施
- ・ 近隣の学校と協働し、学年ごとに必要な情報活用能力を定めた「ICTスキル習得体系表」を作成
- ・ 他校の教職員との情報交換会を開催し、連携を深め、好事例の共有を推進
- ・ 校内研修を通じて、教職員がICT活用のよさと可能性を体感し、授業への積極的な導入を促進
- ・ 生成AIを使用した文章作成やイラスト作成を使いながら学び、ICTリテラシーを向上
- ・ 教員の日常業務(授業準備、資料作成など)を生成AIで効率化し、事務作業の負担を軽減
- ・ 情報モラル向上の取組を授業参観に位置付けるなど、管理職を中心に研修・研究の充実を図る

### 令和6年度重点目標

「全教職員で取り組む1人1台端末の活用」～「徳島ICT活用モデル」から指導・学びの変革をめざして～

生成AIの使用による働き方改革、情報モラル・セキュリティ教育の充実



### 対応状況

- ・講師を招いて研修会の実施
- ・自動採点システムの導入（一部の教科）
- ・学校独自のICT活用モデルの作成
- ・教職員のICTを活用した業務改善

### 学校における教育DXを推進する好事例

- ・講習会で学んだことの実践  
例) ソフトの機能を十分利用した教材の作成
- ・ICT活用機会の工夫  
例) 研究授業は全職員で役割分担し、取り組む（ICTを触らない先生を作らない）
- ・ICT活用による教員の業務負担の軽減  
例) アンケート機能の活用、生成AIの積極的活用

## 令和6年度重点目標

これまでの実践を踏まえた、ICTの日常的な活用による「生徒主体の学び」と「ICT」との最適な組み合わせを実現

自他の権利を尊重し、デジタル技術を適切に扱う責任を生徒が自覚できるよう指導を充実

## 対応状況

- ・学校計画訪問や要請訪問等で、校内でのICT 活用に係る研修や推進状況を確認し、指導・助言
- ・教育DXを推進するために県立学校の教員・生徒にGoogleアカウントを配布
- ・ICT活用の日常的・効果的な活用のポイントや生成AIの校務での活用についての好事例を部会通信で発信

・情報モラルについて、「GIGAワークブックとくしま」の導入やリーフレットの配布

## 学校における教育DXを推進する好事例

- ・ICTを用いた授業改善について、校内での好事例を集約し、学校全体で共有する仕組みづくりに着手
- ・ICT活用に関する校内研修の工夫  
例)グループや有志でのミニ研修、Teams等で研修資料やマニュアルを共有
- ・ICT活用による業務負担の軽減(クラウドサービス等を活用)  
例)夏季休業中勤務区分一覧表、保護者面談の日程調整、欠席遅刻連絡、部活動登録、アンケート、等

### <ICTを活用した授業の好事例>

- ・プロンプト作成など生成AIの基本的な使い方を学び、生成AIを活用した創作活動
- ・デジタル地図を重ね合わせ等の活動を通じ、地域性を踏まえた防災対策を多面的・多角的に考察



## 令和6年度重点目標

ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の創出  
～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

発達段階や障がい種別に応じた「情報モラル・セキュリティ教育」の充実

### 課題

- ・オンラインによる学校間交流の充実
- ・ICTを活用した新たな学びや体験の創出
- ・実態に即した「情報モラル・セキュリティ教育」の充実

### 方策

- ・好事例を周知し、活用方法を共有
- ・専門家と連携し、新たな学びや体験に係る研究を推進
- ・「情報モラル・ターゲット表」の活用による学習の拡充



「遠隔授業（沖縄美ら海水族館）」の様子

## 取組の進捗状況

### ①情報モラル研究会

第1回情報モラル研究会を開催

各校がオンラインでつながり課題を共有



オリジナルビデオ等で、自分の学校を紹介

#### 【成果】

- ・県内の12校がオンラインでつながり、情報モラルに関する課題を共有

#### 【今後の方向性】

- ・情報モラルに関する学習について各校の取組成果を「Teams」で共有

### ②新たな学びや体験の創出

ICTをフル活用した新たな学びや体験の創出

鴨島支援学校 オンライン校外学習「とくしま恐竜展へ」



時間や場所等の制約のない「学びの場」を創出

みなと高等学園 教育版マイクラフトで他校と交流



第6回Minecraftカップ 地区大会予選通過

#### 【成果】

- ・ICTをフル活用した新しい「学び」や「体験」を創出

#### 【今後の方向性】

- ・引き続き、個々の実態に合わせた新たな「学び」や「体験」を創出

### ③専門家等との連携

専門家等との協働によるデジタル技術を活用した学び

徳島大学と連携したARを活用した防災教育

企業と連携したVRを活用した感情認知トレーニング



#### 【成果】

- ・専門家等との協働により、デジタル技術の強みを最大限に発揮

#### 【今後の方向性】

- ・好事例を共有することにより、他校における活用の横展開を促進

# 令和6年度GIGAスクール構想推進本部 【 学びの保障 】部会

## 令和6年度重点目標

- ・「中くらいの器」としての『教育支援センター』及び『校内教育支援センター』との連携強化、周知
- ・「学校外の学びの場」における、効果的なICT活用・連携について事例収集、周知



## 取組の進捗状況

### 保健室登校や別室登校の現状

	学校数	事例数
小学校	67	126
中学校	53	198
高等学校	11	44
特別支援	2	3

保健室登校等別室登校の事例があった学校数と事例数

### ICTを活用した連携

●MetaMoji ClassRoomで健康観察を実施

■担任等と健康観察の内容を共有し、その日の活動内容を検討

●成果物を写真や動画に残し、担任や保護者等と共有

■担任等の児童生徒に対する共通理解が進むことで、組織的な支援が実現

・児童生徒・保護者の希望に配慮しつつも、本来の保健室の機能が失われないような計画や組織体制が必要

### 特別支援学校の取組

#### 心のサポート

●MetaMoji ClassRoomに2週間分の予定を掲載し、生徒が登校の可能性やオンライン授業の可否を記入

■担任及び教科担任で共有し、生徒への声かけや支援に繋げる

#### 学びのサポート

●Zoomを用いて授業配信するとともに、授業内で配布するワークシート等をMetaMoji ClassRoomに掲載

■チャットに生徒から質問があるとT2がリアルタイムで内容のフィードバックを実施

・自己選択や自己決定、自己主張に苦手を有する生徒が発信する連絡・情報に関する信憑性の確認方法

### 教育支援センターでの取組

- 先生が運動会で披露するダンスの動画を送信  
→児童生徒に共有することで学校の楽しい雰囲気味わう
- Webドリル教材やデジタル教科書の活用  
→各自のペースで学習
- 学習支援ツールの活用により、宿題をタブレットで提出  
→学校と繋がりの確保
- 数学のオンライン授業配信  
→学びたいと思ったときに学べる環境の整備

MetaMoji Class Roomを通して担任と繋がる

信頼関係の構築により学校復帰の実現

### 教育支援センター訪問によるFAQ作成

・学校と繋げたり学習支援システムの活用等、ICTの更なる効果的な利活用が必要

## 令和6年度重点目標

### 義務教育段階におけるGIGA第2期の端末更新及び学校業務支援システムの更改

#### 課題

- ・GIGAスクール構想推進に向けた、端末機器等の具体的な調達方針の検討
- ・「学校業務支援システム」の更新に向けた、次世代校務支援システムの導入の検討

#### 方策

- ・端末調達に係る市町村の事務負担の軽減や、スケールメリットによる端末等の共同調達を通じた端末利活用等に係るノウハウを共有することで業務改善を図る。
- ・引き続き、他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握を行う。

## 取組の進捗状況

- 学習者用コンピュータの共同調達の仕様等について情報収集・情報共有・検討を行う。
  - ・各市町村と情報交換を行い、共同調達に係る情報共有を行っている。
  - ・各市町村に向けて、3OS (WindowsOS・ChromeOS・IpadOS)の各ベンダーによる説明会を実施。
  - ・各OS採用している市町村教育委員会及び教職員から、報告及び意見交換会を実施。
  - ・各都道府県への聞き取り等を実施し、全国状況の把握を行っている。
- 学校業務支援システムの更新に向けた導入方針について検討を行う。
  - ・次世代校務支援システムの導入に向けて情報収集し、検討をしている。

# 令和6年度GIGAスクール構想推進本部【教育DXタスクフォース】部会

## 令和6年度重点目標

徳島県における教育のDXを加速化し、教育に必要な環境を実現する協議及び調整を行う

### 課題

- ・県立学校におけるタブレット端末の再整備の実現及び、次期端末への更新等に関すること。
- ・ネットワーク環境の改善に向け、ネットワークの遅延等の改善に関すること。

### 方策

- ・他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握を行う。
- ・対象校の論理構成図や物理構成図及び現地調査を実施することで問題点を抽出し改善を行う。

## 取組の進捗状況

○徳島県学校教育情報化推進計画について検討  
徳島県学校教育情報化推進計画に係る成果指標

- (1) 数値目標について
- (2) ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成について
- (3) ICT推進体制の整備と校務の改善について

○県域の統一アカウントについての検討

- (1) 県域の統一アカウントとは
- (2) 県域の統一アカウントの利点
- (3) 他県の状況
- (4) 導入する場合の検討事項

→ 県域の統一アカウントを推進していく

○県立学校生徒用タブレットのOSについて  
ChromeOS実証校へアンケートを実施(9/2~20)

	起動の速さ (非常によい・よい)	使いやすさ (非常によい・よい)	学習活動で使う端末で最適なのは(Chromeを選択)
教員	94%	58%	43%
生徒	92%	68%	33%
保護者	39%	28%	/

次期タブレット端末として、ChromeOSの導入を進めていく方針を確認

○県立学校のネットワークアセスメントについて

現在、県立学校・中等教育学校の論理構成図及び現地調査を実施(昨年2校実施)。実施後、ボトルネックとなっている箇所を洗い出し、改善していく。

## 令和6年度重点目標

### ・CBTの効果的なデータ利活用及びMEXCBT運用についての調査・研究

#### 課題

- ・MEXCBTで取得可能なデータの活用方法について
- ・独自の学力調査等をMEXCBTに登録するまでの課題の洗い出し

#### 方策

- ・MEXCBTを部会員で試験使用する。
- ・他県のMEXCBT運用状況等について調査する。

## 取組の進捗状況

### ① MEXCBTの利活用について

- ・令和9年度に、全国学力・学習状況調査がCBT (MEXCBT) に全面移行の予定
- ・MEXCBTの利用方法等について、当部会で学校向けの「部会通信」を作成・配信
- ・部会員でのMEXCBT試験使用は継続する
- ・今後の活動として、MEXCBT等、CBTで得られるデータの活用方法について、「部会通信」を作成・配信の予定

### ② 他県のMEXCBT運用状況(地方学力調査)について

- ・県レベルで地方学力調査を実施している14自治体に聞き取り調査を実施  
(文科省資料「MEXCBTを活用した地方学調等の実施について～地方学調虎の巻 初級編～」に掲載の自治体)
- ・悉皆調査、プレ調査、希望する学校への調査等、MEXCBTの運用状況の把握
- ・独自のCBTシステムの運用状況についても聞き取り
- ・作問フェーズ・調査実施フェーズ・結果返却フェーズにおける各取組状況の把握
- ・IRT(項目反応理論)活用の実施状況についての聞き取り